

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500040		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホーム 悠楽苑		
所在地	山口県周南市大字中須南鎌田字2553-13		
自己評価作成日	平成25年1月25日	評価結果市町受理日	平成25年7月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成25年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護師と連携を取り、看取りを実施している ご利用者の特変に気を配り迅速に対応している。地域との交流やつながりを大事にしておき行事の際には可能な限り参加し、悠楽苑も地域の一員として関わって行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敬老会やお大師参り、秋祭り、マラソン大会の応援、保育園の夏祭り、田んぼのクリスマスツリー点灯式などの地域行事に参加され、地域の祭り(もみやま奉納)では、事業所に神輿が立ち寄ったり、小中学校の運動会や地区の運動会では、利用者のためのテントが準備されるなど地域とのつながりを深めておられます。事業所主催の地域ふれあい交流会では、運営推進会議のメンバーや棚田清流会の協力を得て、地域の多くの方たちの参加がある他、散歩時に挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に地域の一員として交流されています。食事は家族や近隣の人からの差し入れや事業所で採れた野菜を使って、三食とも事業所で食事づくりをしておられ、利用者は食材の下ごしらえや盛り付けなどを職員と一緒にされ、職員は利用者と同じテーブルで同じものを一緒に食べながら、食事が楽しみなものになるように支援されています。東西のゆにつとは廊下でつながって自由に行き来でき、利用者同士が交流を楽しんでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の全てが理念を理解できているとは思えないが、自然とできていると思う。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。利用者がゆっくり、その人らしく過ごせるよう、日々のケアの実践に取り組んでいるが、全職員による理念の共有は出来ていない。	・全職員による理念の共有
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事へなるべく参加し地区の一員となれるように努力している。	地域の敬老会やお大師様、秋祭り、田んぼのクリスマス点灯式、マラソン大会の応援、保育園の夏祭り、小、中学校の運動会、地区運動会など地域行事に利用者と職員が参加している。運動会では事業所のための席が用意してある。事業所主催の地域ふれあい交流会は地元住民の多数の参加があり、クリスマス会には保育園児を招待する等交流を楽しんでいる。散歩時に挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れがあるなど日常的に交流している。ボランティア（ひょうたん一座）の来訪もあり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしかれていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価を十分に活かしかれていない。	職員全員が自己評価表に記入し、管理者がまとめている。職員で目標の共有やスキルアップについて目標達成計画に掲げ取り組んでいるが、全職員が評価の項目を理解し、評価を活かすまでには至っていない。	・全職員による評価の意義と項目の理解 ・評価結果を活かす取り組み

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の状況の報告や地区行事の日程などを聞くに留まり、実際のサービスに活かしていない。	年6回開催し、利用者の状況、活動状況、外部評価報告等の報告を行い、意見交換している。地域行事の紹介があり、田んぼのクリスマスツリーの点灯界に利用者が参加している他、事業所行事に地域の人が参加し、協力が得られるなど、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築けるように努力はしているが、よほどわからないことや困ったことがないと、こちらから連絡をすることはあまりない。	市担当課とは、運営推進会議時に情報交換を行い、電話や直接出向いて相談し、助言を得るなど協力関係を築くように努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に玄関の施錠を行っている。身体拘束に関しては勉強会等で少しずつ職員に理解できるように話をしている。玄関を開放するには業務改善が必要と考えている。	管理者が外部研修で学んだことを勉強会で職員に伝える他、日常業務の中で、その都度職員が話し合っており、理解するように努めている。玄関は施錠しているが、外出を察知したときは、職員と一緒に出かけるなど工夫している。スピーチロックについては、管理者が指導している。	・玄関の施錠についての検討
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフが理解していけるように話をしているが、実際に研修等には参加していない。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を開いておらず学ぶ機会はほとんどない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行っているが、実際に家族に聞いたことがないので、不十分な点もあるかもしれない。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の受け付け体制は整っていて第三者委員も選定されているが、外部者へ表せる機会は設けていない。	契約時に、苦情や相談の受付体制、第三者委員、処理手続きなどを家族に説明している。面会時や電話などで意見や要望を聞いている他、月1回市の介護相談員の訪問があり、利用者から相談を聞いており、事業所は報告を受けている。服用についての意見があり、職員が共有するために苦情対応記録や申し送りノートに記録し、それらを運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度機会を設けているが、定期的には設けていない。代表者はなるべく反映できるよう努力はしている。	不定期ではあるが職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設ける他、日常の業務の中で、管理者が意見を聞くように努めている。利用者に関わる時間を増やすために勤務体制を変更するなど、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は努力している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修に参加できる機会はあるが、参加する職員はほとんどいない。	外部研修に管理者が参加し、資料を閲覧できるようにしている。毎月1回の法人研修に管理者が参加し、「事故発生時の対応」「異常を見抜くポイント」「看取り」「喀痰の吸引」などの資料を閲覧できるようにしている。内部研修は「認知症とは」「看取りについて」「感染症」等について勉強会を実施している。新人職員は、管理者や主任が直接指導し、働きながら学べるように支援している。	・外部研修への職員の参加の検討 ・内部研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんどない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく本人の希望に添えることができるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望にも添えられるように努めているが難しい部分もある。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外のサービスを導入したことはない。インフォーマルなサービスも導入していく必要があると思っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが感謝の気持ちを述べている、お互いが助け合って生活することが少しでもできていると思う。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡をこまめにとり、現在の状況を伝えることで、家族も本人を支えていけるように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等が来苑することはあるが、こちらからの働き掛けはなく十分な支援を行えていない。	友人や知人の来訪、電話や手紙を支援し、家族の協力を得て、本人の誕生日に帰宅したり、美容院の利用など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中には一人が好きな方もいらっしゃるが場面場面に応じて関わり合いが持て利用者さん同士で支え合える関係が当人同士で築けている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全ての家族にではないが、必要な方には相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めているが不十分である。また、意志の疎通ができない方に対しての利用者本位の部分について職員同士の意見のすり合わせができていない。	入居時のアセスメント記録を活用する他、日々の関わりの中での会話や表情から汲み取り、経過記録に記録して、本人や家族の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の段階で把握しそれまでの生活の延長線上でサービスが利用できるように努めているが、細やかな部分まで対応できていない。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現在の状態に合わせるように努めているが不十分である。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状チームとしての話し合い等はなく、計画作成担当者が作成している。	計画作成担当者を中心に毎月1回カンファレンスを行い、利用者、家族、主治医の意見を参考に介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしている他、状態に変化が生じた時はその都度見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録、申し送りノート、日誌などに気づきを記入し職員間で情報が共有できるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体であるやまと苑と連携を取りその時々で必要な事をできる限り実施しているが看護的な部分が多い。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	検討の段階で中断している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に添えるように努力している。また苑の方から情報を伝えることで家族とも連携がとれるようにしている。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の往診や緊急時の対応などの支援をしている。家族の協力を得て他科受診も含めて受診の支援をし、家族と情報を共有して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも電話連絡できるように看護師と連携をとっており、報告や相談などで適切で迅速な対応ができるように努力している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者はこまめな面会、病院や家族に連絡し情報を得て退院に向けての準備を進めているが病院側との利用者さんに対する熱量の違いを感じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	チーム間での情報の共有、家族の本人に対する思いなどが職員間で統一できず、不十分である。今後は強化していく必要がある。	指針があり、契約時に本人や家族に説明している。重度化した場合は早い段階から本人や家族、主治医や関係者と話し合い、方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	AED、心肺蘇生の訓練は行ったが、やけどや骨折等の応急手当、処置等の訓練は十分に行えておらず何かあればすぐに受診するようにしている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に発見時の状況や対応と気づきを記録し、供覧して職員間で共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故防止マニュアルがあり、消防署による救急救命法、AED使用方法を受講している。全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全手の職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定での訓練しか行っておらず、地震や水害の訓練は未実施である。	マニュアルを作成し、年2回消防署の協力で昼間の火災を想定した避難訓練、通報訓練を利用者と一緒に行っている。避難場所の確認はできているが、地域との協力体制について運営推進会議で意見交換を行い、働きかけをしているが具体的な協力体制は出来ていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一部の職員は不十分である。まず認知症になるとどういう状態になるのかを一人一人理解していく必要があると思っている。	認知症の対応について学習し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけないよう言葉づかいや対応に努めている。不適切な言葉や対応があれば主任が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全て職員が決めるのではなく、本人の思いや希望を聞き自己決定できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前に比べ一人一人に合わせるように努力はしているが、希望をかなえることはほとんど出来ていない。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには十分に注意して関わっているが女性への化粧は実践したことはない。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	参加できる方には、調理を手伝ったり後片付けを手伝ってもらったりするが、食事が楽しめるというより持てる力を活かせるようにと働きかけている。	利用者の好みを聞いたり、地域の人や家族からの差し入れや事業所の畑で採れた野菜を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。下ごしらえ、盛り付け、食器洗い、配膳など、利用者はできることを職員と一緒にして、職員も同じテーブルで同じものを食べて、利用者が食事を楽しむことができる支援をしている。おやつづくり、パンバイキング、誕生日に合わせた好みのメニュー、個別対応での外食など食事が楽しみなものになるよう工夫をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いや薬の関係もあるが、なるべく対応できるようにしている。栄養バランスやカロリー等は把握しておらず、以前までの流れを維持している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる部分は自分でやっていただき、できない方は手伝いをするようにしている。歯が無い方でも爽快感を得ることが出来るように対応を心がけている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄するパットの種類を変更することで排泄の自立に向けて取り組んでいる。またパターンを掴むことで失敗を減らすことができるように取り組んでいる。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫はあまりできていない、今後は薬剤の使用も大切だが、運動や食物繊維などをたくさんとれる方法を考慮していきたい。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日や時間は職員の都合で決めている。しかし少しでも楽しめる工夫や入浴できなくても手浴や足浴を取り入れ気分転換を図れるような支援している。	入浴は毎日午後としているが、希望があれば午前中も入浴できるように支援している。入浴をしたくない利用者には声かけや職員の交代、時間変えるなどの工夫をして支援している。体調のすぐれない利用者は足浴や清拭を行い、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の想いをくみ取りできる限りの支援をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師、看護師とも連携とも連携がとれていてわからないことはいつでも聞けるようにしている。またファイルを作成しいつでも閲覧可能にしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもち、苑の一員として生活しているかたもいる。すべての方の要望(嗜好品)に答える事はできていないが、少しでも楽しめる工夫をしている。	テレビ視聴、週刊誌や広報を読む、歌を歌う、ぬり絵、折り紙、パズル、食事の準備、下ごしらえ、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、ゴミ袋づくり、畑づくり、花壇の手入れなど、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。少量の飲酒やノンアルコールビールなど嗜好品の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外への外出は少なくなってきた。ドライブ等で数人で出かける事はあるがその日の希望には添える事ができていない。	散歩や買い物、季節の花見(紫陽花など)、ドライブ(笠戸、米泉湖、遠石八幡宮)、徳山ツリー祭りや神社への初詣、お大師様参り、地域行事(運動会、秋祭り、マラソン大会など)への参加の他、家族の協力を得て、外食、買い物に出かけるなど、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はすべて苑で行っていて、利用者さんは持つ事ができていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があればいつでも対応は可能。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、ホールには季節感を取り入れた掲示板等で居心地良く過ごすことが出来るように工夫している。	リビングは広く、明るく、往来する車輛や人、外の景色が眺めることができる。壁には季節感を取り入れた手づくり作品や利用者の行事の写真などを飾り、キッチンからは調理の匂いや音がして、生活感や季節感を感じることができる。テーブルや椅子、テレビが配置しており、畳の間には仏壇があるなど、家庭的な雰囲気を感じることが出来る様に工夫している。ユニットをつなぐ廊下は広く、ソファを配置し、療ユニットの利用者同士や家族とくつろぐ場となっている。室内の温度、湿度、換気に配慮し、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の様子により職員一人一人が工夫して利用者同士が関わりあって生活できるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用されていた家具やなじみの品物などを持ち込むことが出来るようにしている。	使い慣れたテレビ、毛布、衣類、週刊誌等持ち込み、家族写真を何時でも眺められるように壁に貼り、利用者が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に名前を掲示するなどのたいおうしかしていない。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム悠楽苑

作成日： 平成 25年 7月 8日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を作り、事業所内に掲示して、日々のケアの実践に取り組んでいるが、全職員による理念の共有には至っていない。	全職員による理念の共有ができる	月1回の全職員参加のケアカンファの始めに、理念に目を通し、管理者と職員が、その理念を共有して実践につなげていく。 また、新しく入られた職員には事業所の理念を伝え、全職員の共有に努める。	12ヶ月
2	3	全職員が評価の項目を理解し、評価を活用するまでには至っていない。	全職員による評価の意義の理解と活用と評価結果を活かす取り組みをおこなう	月1回の全職員参加のケアカンファの始めに、管理者が評価の意義を説明し、評価を活かす具体的な改善策を職員で話し合い活用につなげるように努める。	12ヶ月
3	36	災害対策マニュアルを作成し年2回消防署の協力で昼間の火災を想定した避難訓練、通報訓練を利用者と一緒に行っているが、地域との協力体制の構築までには至っていない。	地域との協力体制の構築ができる	運営推進会議で働きかけをしているが、具体的なものになっていない為に、再度、働きかけていく。地域自体も高齢化しているため、地域での協力者の情報収集も行い、特に、夜間の災害を想定した訓練が実施できるように努める。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。